

ぐたのしくあそぶまちづくりを応援する情報誌「たむたむ」

# tamtam

2024.01  
VOL.26

今号からtamtamが新しくなりました！

人が動き出すあそびの力



特集

人が動き出す活動のヒントを探る

活動紹介

楽しみながら地域情報を発信する  
久下ホームページクラブ

インタビュー

あそびが人を育てる  
里山ようちえん ふえっこ

## 特集 人が動き出すあそびの力

今回の特集では、人が主体的になり、楽しいと感じるようになる“あそび”的について考えます。地域で暮らす人たちの主体性を引き出した活動や多くの遊びと“あそび”を盛り込んで活動している団体の事例を通して、人が自然と動き出すヒントを探ります。



みんなでドミノ

### “あそび”が活動にもたらす効果

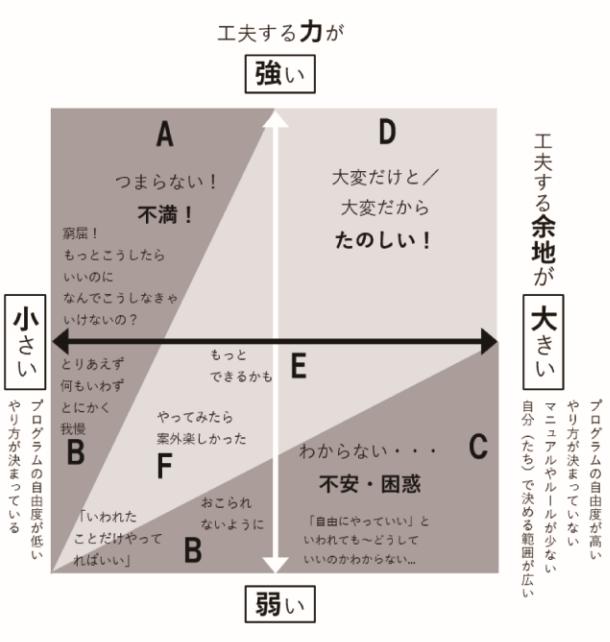
地域や学校の活動、ボランティア活動などで、楽しいと感じるのはどのようなときでしようか? 「新しいことにチャレンジできた」「仲良くなれた」「自分たちらしい取り組みができた」など楽しさは人それぞれです。一方、地域での持ち回りの役員や、慣習で参加する活動では「大変だ」「時間が取られる」といった負担感や、「やらされている」と感じていませんか? 「やれ」とを先に決められている「しがらみが多く、やり方を変えることができない」といった制限ばかりの環境では楽しさは生まれにくいものです。裏返すと、自分で考え自由に行動できた方が楽しさを感じやすいはずです。

楽しさを感じやすくなるためのコツの一つとして、参加者自身で考えて行動することができます。物事にゆとりを作つておくことがあります。このゆとり(余白・余地)を今回は単なる“遊び”とは区別して、“あそび”と呼びます。自分なりに工夫ができるような余地“あそび”があると、「自分でできそう」と関わる人たちが自ら動き出し、楽しさや面白さはさらに人の輪と活動が広がったり、「またやつてみたい」と活動が続いていきやすくなったりするきっかけになります。

#### ▼ “あそび”を取り入れた一例

丹波市市民プラザのイベント『大交流会』企画「みんなでドミノ」(2022年度)  
(企画)イベント実施に向け、声かけをして集まつた企画メンバーとどんな企画をやるのかと一緒に

考える」とから始め、当日はイベント出展者や来場者も参加するドミノ並べを実施しました。  
(ポイント)ドミノというアイデアを企画メンバーで決め、企画の流れやドミノ並べの遊び方を一緒に考え、当日に向けた担当や準備は任せて、自由に考え動いてもらうことを促しました。  
(成果)「工夫できる余地“あそび”」を活かして、自主的に並べ方を相談し合つたり、企画メンバーが来場者と一緒に遊び役割を率先して担つたりといふ行動につながりました。ドミノ並べ挑戦の達成だけではなく、交流の時間を育めたことで、関わる人たちに自分たちなりの企画ができたという達成感を感じてもらうことが出来ました。



◆図1 ちょうどよい「余地」があると「楽しい」が発生する  
出典 西川正『あそびの生まれる時』  
「こうから 2023年3月 61ページ

## 活動に“あそび”を取り入れる「ツ

図1は、参加者の「工夫する力」の強弱と「工夫する余地“あそび”」の大小を図で表したものです。例えば、自分たちで考え行動ができるような工夫する力の強い人に、やり方を決めてしまったり、自由な活動を制限したりすると「不満」(A)を感じやすくなります。そういうときには、自由に考える範囲・自分で決められる余地“あそび”を広げてあげると、バランスがどれ「楽しい」と感じるようになります(A→D)。一方、自分ではどう動いていいのかわからぬ工夫する力の弱い人に、自由にやっていい、自分たちで考えることを求める「不安」を感じやすくなりますが、プログラムを決め、ルール通りにやってもらうといった形で、“あそび”的バランスをとつてあげると「やってみたら楽しい」「もっとできるかも」と感じられるようになります(C→E・F)。

この“あそび”的バランスについて地域の事例から考えます。下記「久下ホームページクラブ」の活動メンバーは、公募で集まつた住民です。ホームページの運営や情報発信を「自由にやってください」というのはハードルが高く、「難しい」という気持ちを生みかねません。そうではなく、自分たちで話題を持ち寄つて、作りたい記事を作れる環境があることで、“あそび”的バランスがこれまで、「やってみたら楽しかった」「もっとできるかも」(C→E・F)と感じ、メンバーが楽しんで取り組んでいます」とがうかがえます。

以上のように、工夫する余地は大きければ良い

というものではなく、活動を取り巻く状況を考慮し、“あそび”的バランスをとることが大切です。参加者の活動への関心や経験値はどのくらいか、企画のテーマや目的の設定、やり方や進め方の柔軟性などを事前にイメージすることが大切です。

“あそび”的バランスがとれると、関わる人々みんなが、DやE・Fのところのように感じ、楽しんで活動できるようになります。

◆参考文献 西川正『あそびの生まれる時』  
〔「ろから 2023年3月〕

## 人が動き出す活動のヒント

「みんなでドリーム」「久下ホームページクラブ」の活動に共通しているのは、関わる人たちが主体的に動き出すことを目指し、“あそび”が生まれていることです。しかし、“あそび”をつくることや、運営側の人たちでいきなり“あそび”的バランスをとる役割を担うことは初めから上手いくわけではありません。まずは一人で考えず、誰かと一緒に考えることが最初に作れる余地“あそび”です。もし、その人からあまり積極的に関わつてもられないときには、こちらからやり方や進め方を考えて提案するなどの工夫をやってみます。

反対に、もしその人が自分で考え、積極的に動いてくれそななら、その気持ちを尊重して、“あそび”的バランスをとつてみます。このように誰かと一緒に“あそび”を作つていくことができるようになると、まずは自分たちが図1の「大変だけど・大変だから、楽しい」(D)と思えるようになつていいく」とでしょう。

## 久下ホームページクラブ (久下自治振興会)

### 楽しみながら地域情報を発信する

「久下ホームページクラブ」(以下、クラブ)では、振興会のホームページに掲載する記事を、公募で集まつた市民ライターが作成し投稿する活動を行っています。毎月継続して活動しており、今年で3年目を迎えます。クラブのメンバーはそれぞれ身近な話題や出来事を題材に記事を作成し、月1回の勉強会に持ち寄ります。勉強会では、講師の指導を受けながら記事を投稿し、残りの時間でスキルアップの勉強会や情報交換を行います。

クラブの活動は、振興会の情報発信の一部を担つているだけではなく、メンバーが交流する場になっています。勉強会では記事を書いていて感じたこと、次に取り上げたいスポット、地域の変化などを話題に会話が弾みます。女性メンバーは「普段から何を記事にしようかと考えることが楽しい。毎日の散歩でも、地域の風景や季節の変化を意識するようになりました」と話されていました。



◆久下ホームページクラブの勉強会



## 里山ようちえん ふえっこ (特定非営利活動法人丹のたね)



法人代表  
竹岡正行さん  
園長  
竹岡郁子さん

### “あそび”の感覚をつかむ人材育成

**正行さん** 里山楽校で勤める20代スタッフたちは、ふえっこや里山楽校のような遊びや学びの経験がありません。前述の遊びや自由さ、責任と“あそび”的バランスの他にも、どう対応すべきかわからない場面が日常的にあります。そのため、日々代表である私や経験のある年長スタッフと振り返りや互いに意見交換を重ねています。子どもたちと一緒に楽校をつくりていくためには、全力で遊ぶときにはスタッフ自身が子どもと同じ目線で童心に返り、責任の伴う重要な場面では大人の判断力を持ち、行動で示せるようにならないといけません。こういった経験を繰り返し積み重ねることでスタッフが“あそび”的感覚をつかめるようになってきたと感じています。

### 遊びの中にいかに“あそび”をつくるか

**正行さん** 野外保育では、もともと自然の中にたくさんの“あそび”があります。遊びに関しては、「何やっても良いよ」ではなく、年齢に応じて自由に遊べる範囲をスタッフで決めています。屋内保育と違い、自然の中で遊べる場所は広く、危険なものもたくさんあります。どこまで遊びの範囲を広げるか、子どもたちが主体的にやりたいと言ったことをどうやれば実現できるか、危険や安全の中に余白“あそび”をどのように持つかが重要です。自分たちで考え遊べる年齢である里山楽校の子どもたちも、自由を優先し見守るアプローチだけになってしまって、少しでも不自由や自分のやりたいことができないときに、「“あそび”がない」と不満や制約を感じはじめます。子どもたちの意思や成長をスタッフがしっかりと把握し、工夫する余地“あそび”的バランスをとることが欠かせません。

#### 【団体プロフィール】

ふえっこは山南町笛路村の竹岡農園にあり、自然の中で遊び、生きる力や考える力を学ぶ少人数制の野外保育、オルタナティブスクール\*を行っています。2016年にお母さんと子どもが安心して過ごせる居場所として親子クラスをスタートし、子どもを預かる幼稚クラスを2019年に開設しました。2022年には6歳から15歳の子らが通う里山楽校を開校しました。

\* 子どもの個性を尊重し、自律性・主体性を育む教育課程を実施する学校

今号は、遊びや学びを通して、市民参加の場づくりに取り組まれている西川正さんのお活動・考え方を参考にしています。紙面でお伝えできなかつた活動や書籍はウェブ版tam tamに掲載しますので、ぜひご覧ください。“あそび”的感覚やバランスは実践してみると分からぬものですが、書籍にはポイントが分かりやすくまとめられているので、実践だけではつかめない部分の参考になります。



tam tam  
ウェブ版



西川正著  
『あそびの生まれる時』

#### コラム

#### 活動や書籍から学ぶ “あそび”的ススメ

リユースアルにあたつて  
新しくなったtam tamはいかがでしたか？ 2019年11月に創刊したtam tamは4年が経ちました。丹波市内25地域を取り上げ終えたことを節目に、これまでの5つのコーナーで構成していた紙面を、全体で一つのテーマを取り上げ、様々な視点から深める内容にしました。活動しているみなさんに「やってみよう!」といふきっかけが届けられるよう、これからもうきつかけが届けられています。

2ヶ月に1回お届けしていきます。



丹波市市民活動支援センター  
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER  
<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内  
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp  
開館時間 10:00 - 18:00(会議室は21:30まで) / 毎週月曜日・年末年始休館